

## 富山県 氷見圏域 総合水産基盤整備事業計画

### 1. 圏域の概要

#### (1) 水産業の概要

##### ① 圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

氷見地区は、富山湾の西北部に位置し、海底勾配が急峻で大陸棚が広く発達している地形条件から沖合には好漁場が形成されており、古くから定置網を中心とした沿岸漁業が盛んである。特に大型定置網では、ぶり等の大型高級魚のほか、あじ、いわし、いか等、豊富な種類の漁業が営まれている。

氷見漁港は、氷見市沿岸の陸揚げ拠点となっており、県外からも市場への水産物の搬入があり、県内最大の水産物産地市場を形成している。1市（氷見市）、1漁協（氷見漁業協同組合）となっている。

##### ② 主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況（R2）

- ・主要漁業種類：定置網漁業、刺網漁業
- ・主要魚種の生産量：いわし類 3,876 トン、いか類 1,315 トン、ぶり類 599 トン、しいら類 427 トン、さわら類 257 トン、あじ類 209 トン

##### ③ 水産物の流通・加工の状況

- ・氷見漁港及び周辺漁港において陸揚げされた水産物は、産地市場である氷見漁協地方卸売市場から仲買人を経由し、県内外へと出荷される。氷見漁協地方卸売市場は、取扱量が年間約 13,280 トン(1位)、取扱金額が年間約 34 億円(1位)の市場規模である。

##### ④ 養殖業の状況

本圏域内では、小規模ながらワカメの養殖が行われている。また、休耕状態であった区画漁業権区域を活用したギンザケの養殖も試行されている。

##### ⑤ 漁業経営体、漁業就業者（組合員等）の状況

氷見漁業協同組合（R2）

- ・組合員数 正組合員：743 准組合員：865 計：1608
- ・県内全体の組合員数の約3割を占めている。
- ・近年の組合員数は減少している。

⑥ 水産業の発展のための取組

・水産物のブランド化を推進し、産地偽装の防止を図るため、「ひみ寒ぶり」の図形付き商標が平成 23 年 10 月に商標登録された。

⑦ 水産基盤整備に関する課題

圏域内の漁港については、整備はほぼ概成しているが、施設の老朽化により、補修や更新が必要な施設が増加していることから、予防保全による施設の長寿命化を図るとともに更新コストの平準化やコスト縮減が課題である。

⑧ 将来的な漁港機能の集約化

現時点でなし。

(2) 圏域設定の考え方

① 圏域タイプ	流通拠点型	設定理由；産地市場を有する流通拠点漁港である氷見漁港へ水産物を集約し、消費地や加工場へ出荷している。
② 圏域範囲	氷見市	設定理由；流通拠点漁港である氷見漁港への水産物の集約が及ぶ範囲である。
③ 流通拠点漁港	氷見漁港	設定理由； ・産地市場を有し、取扱量は 13,280 トン、属地陸揚げ額は約 13 億円。 ・高度衛生管理（L2）に対応するため、荷捌所の改築、清浄海水取水施設の整備などのハード対策を完了している。 ・陸揚岸壁は耐震強化岸壁の整備が完了している。 ・災害発生後も圏域内の生産・流通の拠点として機能を早期に回復させる体制が整備されている。（主要施設の機能強化事業による耐震耐波対策を実施済み、R 3 年度 B C P 策定済み）

		・災害時の漁港利用者の避難対策の検討を予定している。
④ 生産拠点漁港	藪田漁港	設定理由； ・第1種漁港で、属地陸揚げ額は約2億円。 ・災害発生後も圏域内の生産・流通の拠点として機能を早期に回復させる体制が整備されている。（主要施設の機能強化事業による耐震耐波対策を実施済み）
	女良漁港	・第1種漁港で、属地陸揚げ額は約2億円。 ・災害発生後も圏域内の生産・流通の拠点として機能を早期に回復させる体制が整備されている。（主要施設の機能強化事業による耐震耐波対策を実施済み）
⑤ 輸出拠点漁港	氷見漁港	設定理由； ・流通拠点漁港である。 ・属地陸揚げ量は5,514トンである。 ・輸出の実績がある。

(令和2年)

圏域の属地陸揚量(トン)	13,280	圏域の登録漁船隻数(隻)	204
圏域の総漁港数	6	圏域内での輸出取扱量(トン)	不明
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数	0		

当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	該当なし
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における主要対象魚種	
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別生産量(収穫量)(トン)	
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別海面養殖業産出額(百万円)	

## 2. 圏域における水産基盤整備の基本方針

### (1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

#### ① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

本圏域における産地間競争力の強化を図り、消費者に安全・安心な水産物を供給するため、氷見市の流通拠点漁港である氷見漁港では、これまで老朽化した製氷施設の改築を行い、水産物の衛生管理と鮮度保持の向上を図っている。

また、漁港施設については、主要な陸揚岸壁の耐震耐波対策による機能強化を概ね完了しており、今後は、地元水産業の更なる成長に向け、漁業者の漁業活動の省力化や軽労化を目的とした安全対策向上施設や就労環境改善施設の整備を推進し、水産物の生産流通コストの削減を図り、生産量の増大と新たな販路拡大を目指す。また、流通の衛生管理に係る記録の維持管理を行う体制を構築する。

各拠点漁港においては、老朽化により機能低下が懸念されている漁港施設について、予防保全による計画的な補修を行い、漁船航行の安全性や漁業者の作業効率化を図り、水産物の生産流通コストの削減を推進する。

#### ② 養殖生産拠点の形成

本圏域における養殖生産拠点の形成は予定されていない。

### (2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

#### ① 環境変化に適応した漁場生産力の強化

- ・海洋環境の変化等により、藻場の部分的な衰退がみられる海域において、藻場の保全活動を行っており、水産多面的機能発揮対策事業を活用し、氷見市水産多面的機能発揮対策協議会が行っている食害生物の除去の活動について支援する。
- ・県水産研究所では、貧植生海域における藻場造成の実証研究として、海藻種苗を付着させたロープを移植し、海藻が成長し卵や胞子を放出して周辺に海藻を増やす取り組みを行っている。また、モニタリングについては5年毎に、湾内の藻場の調査（種類、現存量、面積等）を実施し、藻場の生育状況を確認している。

#### ② 災害リスクへの対応力強化

本圏域内の各拠点漁港では、「富山県設計津波に関する連絡調整会議」や「県防災会議地震対策部会」によるシュミレーション調査による検討において、東日本大震災のような海溝型地震による甚大な被害をもたらす津波は想定されていないが、活断層地震による津波が想定されており、地震動や津波に備え、被災後の地域の漁業活動や水産流通が早期に再開できるよう地震・津波対策に取り組んでいる。

また、富山県湾特有の冬季風浪による「寄り回り波」による高波被害への対応が必要であり、H20の入善高波災害の後に県内全域で見直しした設計沖波による漁港

の主要な防波堤等の耐震・耐津波・耐波浪対策（嵩上げ、拡幅等）を推進している。

しかし、特に漁港規模の小さい阿尾漁港、宇波漁港、大境漁港では十分な老朽化対策が実施できず、漁港施設の老朽化が進行している。今後、岸壁や泊地などが使用できなくなり、漁業活動に支障を来すことが懸念されている。市場機能は氷見漁港に集約され、圏域の水産業は氷見漁港と市営5漁港の6漁港一体で成り立っていることから、圏域全体としての生産・流通機能を確保するために計画的な施設補修を行う必要がある。

### (3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

#### ① 「海業」による漁村の活性化

氷見漁港に隣接する「道の駅氷見」には、氷見漁港外市場「ひみ番屋街」があり、地元で獲れた鮮魚や水産加工物の直販施設、地元特産物の物販店、飲食施設など、年間100万人以上の観光客が訪れる地域の交流拠点となっており、周辺に立地する天然温泉「氷見温泉郷 総湯」や展望台、水辺広場等を含め、交流人口の拡大による観光振興と地域の活性化により、地元雇用の創出と漁業者の所得向上を図る。

#### ② 地域の水産業を支える多様な人材の活躍

漁港の荷捌所の2階には漁業関係者が運営する「魚市場食堂」があり、地元で水揚げされた魚介類を使った海鮮料理を提供し、地域の交流拠点として魅力を発信している。

漁港施設の老朽化により補修や更新が必要な施設が増加していることから、予防保全による施設の長寿命化と漁業者の就労環境の改善を図るため、防波堤等の機能保全工事を実施する。

### 3. 目標達成のための具体的な施策

#### (1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

##### ① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
該当なし					

・「富山県漁港環境衛生管理指針」に基づく対策（主としてソフト対策）に取り組む。

##### ② 養殖生産拠点の形成

現状では、本計画期間内での各圏域における養殖生産拠点の形成は困難である。まずは、現行の小規模養殖や新たな養殖への取り組みを推進することで、将来的な大規模養殖の可能性を模索していく必要がある。

地区名	主要対策	事業名	漁港・漁場名	種別	流通拠点
該当なし					

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

地区名	主要対策	事業名
氷見	藻場・干潟	水産多面的

・海洋環境の変化等により、藻場の部分的な衰退がみられる海域において、藻場の保全に係るソフト対策として水産多面的機能発揮対策事業により食害生物（ウニ類）の除去及びモニタリングを行う。

②災害リスクへの対応力強化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
氷見	予防保全	機能保全	氷見漁港	3	○
氷見	予防保全	機能保全	阿尾漁港	1	
氷見	予防保全	機能保全	藪田漁港	1	
氷見	予防保全	機能保全	宇波漁港	1	
氷見	予防保全	機能保全	大境漁港	1	
氷見	予防保全	機能保全	女良漁港	1	

・各漁港において、老朽化した防波堤や岸壁の補修、泊地浚渫を計画的に行い、漁港施設の長寿命化を図る。

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

①「海業」による漁村の活性化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
該当なし					

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
該当なし					

4. 環境への配慮事項

- ・防波堤等の機能保全工事や水域の浚渫においては、工事で発生する汚濁が沿岸の漁業に影響を及ぼさないよう、汚濁防止対策や実施時期の調整を行う。
- ・岸壁の照明灯のLED化を図り、維持管理費の削減による省エネ対策を推進する。

5. 水産物流通圏域図

別添「富山県 水産物流通圏域図」参照

# 富山県 水産物流通圏域図



**水見圏域** 流通拠点(一般型)

流通拠点: 水見漁港(3)  
 圏域総陸揚量: 6.627t  
 圏域総陸揚金額: 17億円  
 漁港6港、港湾0港

50t未満	
50~100t	
100~500t	
500~1000t	
1000~5000t	
5000t以上	

- : 流通拠点漁港 (うち流通・輸出拠点漁港 (輸))
- ◎ : 生産拠点漁港 (うち流通・輸出拠点漁港 (輸))
- : 一般漁港
- : 港湾 (漁業関係の利用がなされている主要な港湾のみ)
- ☆ : 産地市場
- 漁業: 主な魚種  
 (主な漁業種が、 (巻き網・底引き網等、)  
、、、 の場合は示す)
- ← : 水産物集約 (漁船陸揚げ)
- ←... : 水産物集約 (陸送)
- ◻ → : 加工場・消費地への出荷  
 (主な出荷先として、圏域内、圏域外の県内、  
 県外を示す。輸出している場合は、輸出先の国等を  
 できる限り示す。)
- ← : 養殖に係る水産物の流れ
- : 養殖漁場